

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	施設理念はあるが、地域密着型の理念は引き続き検討中である。	○	地域の自治会員として、施設がどのような役割になればよいか利用者の方がどのように参加していくことが出来るかを検討して早急に理念を作り上げて行きたい。
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	継続して朝に理念の復唱を行い、各自が日々再確認して意識の統一と実践に取り組んでいる。		復唱のみならず、常に意識をして、今後は会議などで月単位で評価・反省を行って行きたい。
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	2ヶ月に1度に開催される、運営推進委員会の協議で啓発に取り組んでいる。		理念の掲示や運営推進委員会だけでなく、各スタッフが地域・家族の方とのコミュニケーションの中で少しずつ伝えていくように努めて行きたい。
2. 地域との支えあい				
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	地域の世帯数も増え、年間の大きな行事にはたくさんの方に参加して頂いている。日々の外出や散歩の時も挨拶は必ず行っている。		
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	地域住民に案内をして納涼会を実施、近所の保育園行事の参加や園児の受け入れ、また市域でのボランティア活動の発表の場所として地域との交流を図っている。	○	今以上に自治会との連携を図って行きたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	職員の異動に伴って、職員状況が変化した為、話し合いが止まってしまっている。 再度職員会議や、管理者会議で話し合いに取り組んで行きたい。	○	1で述べたように、施設が地域の中でどのような役割を果たすのが良いかを事業として考え、自治会で提案して行きたいと思う。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員の異動に伴って、職員状況が変化した為、再度外部評価の意義を理解の啓発に努めていく。	○	初めて評価をする職員が多く、準備に時間も少なかった為外部評価の理解は少し不足であるが、自己評価の時点で会議を開き、検討を行い、外部評価の結果を基に再度検討を行って行きたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員会では、利用者状況報告や地域の高齢者の問題点の相談と討議を行っており、施設としてどのような対応を行っていくかを話し合っている。	○	運営推進委員会の協議をふまえ、施設としてどのようなサービス または地域の問題解決に対応するかを会議で話し合うようにすすめて行きたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	施設長を中心として、定期的に市役所に出向いて担当者と連携を図っている。	○	内容については周知不足があるので、会議で伝達があればと思う。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護事業や成年後見制度等の必要性については理解していると思うが、研修等の機会が少なく、職員の啓発には繋がっていない。	○	成年後見制度や生活保護などは時代に即した問題で今後権利を行使するケースが増えてくる。 まだ担当職員を配置していないので配置後研修会や勉強会を開催していきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修の参加は積極的に行っている。		世情や講師の方の考え方によっては内容が異なる部分があるので事業所として合っているものを生かして虐待防止に努めている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者および責任者が入所時に重要事項説明書を読み上げて 家族の方と確認して、相互の責任を確認している。 家族の方が疑問に感じられたことは都度説明を行っている。	現在もそうであるが、職員の勤務体制や入所することで環境変化をによる急激な心身変化があること、ケアして欲しいことなど相互のリスクの説明を行い 家族の方に理解して頂いて利用して頂いている。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の方が快適に生活して頂くために、日々の会話の中で精神的な部分のことを伺って苦情を聞いているが直接的な解決には至っていない。	○ 内容や利用者の方の様子を見て解決すべきかどうか判断してしまう為、今後は苦情が出た場合 その場で解決検討は行わず、会議にてどのような対応を行うかを検討して行きたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月1回の手作り広報誌は継続して行っている。 また急激な状態変化があれば管理者や看護師がその度に家族の方が心配されないように電話にて報告を行っている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情を受け付ける場所を掲載の他以前より入り口には苦情を受け付ける箱は設けてあるが実際、意見箱の利用は稀である。	実際直接施設および市役所の担当部署に連絡を入れられており現在は施設の苦情処理委員会で協議中。 また内容如何で施設の保険会社の弁護士の対応が出来るようになっている。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議で職員からの議案の聞き、検討して答えを出している。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	家族や利用者の方の身心状況に合わせて勤務調整することは可能である。	運営面から見ると、勤務調整は難航することもあるが家族や利用者の方の意向に合わせて行えるよう継続して行いたい。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	平成19年11月に施設増床に伴う人事異動が行われた。一時的に馴染みの関係が薄れる事が懸念されたが管理者及び責任者で話し合いを行い、突然の環境変化とならないよう段階を経て異動を行い、混乱を防いだ。	運営上、会議などでその時間帯に職員がいなくなるよう施設相互でヘルプを行っている。 その際に異動となった職員が対応することもあるので継続して関係を築いている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設の掲示板により各研修の案内はされている。意欲ある希望者を優先に受講。内容によって運営者及び管理者が指示して参加している。また参考冊子を回覧して行くことになっており仕事をしながら実践していくことが可能である。会議も全員参加できる体制に整備された。	○ 法人外の研修参加後の研修報告がなされていないので個人のスキルアップだけでなくスタッフ全員のスキルアップに繋がるようにすすめて行きたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年1回のGH施設の相互研修を行って、スキルアップになっているが交流がまだまだ少ないように感じる。	○ 相互研修を施設個別で行う計画を検討しているほか地域のGH施設と連絡を図り、見学や情報交換が出来るよう、管理者が中心となってすすめて行きたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	利用者の方の重度化に伴い、どのような事象がストレスになるか把握に努め、実際夜間1名で転倒や徘徊のリスクが負担になると言う事で未然に最小限の負担になるように現在対策を検討中である。	夜勤者が1名という精神的不安が挙がっており夜勤体制の見直しや、離床センサーを配置するのが良いか検討している。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	年2回管理者がスタッフの評価を行う機会があり良いも悪いも個々の評価を正しく評価して個別に面談し継続的に評価を行う体制となっている。	管理者も良いところは良い、悪いところは改善するようスタッフの負担や状況を把握しながら適宜指導は行っている。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所前のアセスメントは管理者が行っており入所されるまで3回は面接を行い、関係を築き入所後は担当者を中心とし積極的に関係を築くように努めている。	○ 入所前に責任者もしくは担当予定者が同行して入所後でもスムーズに関係が作れるような体制になるようにしたい。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	施設に入所するにあたり、何らかの場面で対応に困難になった場合に、スタッフも家族の方に相談が出来るように入所直後から担当者が家族の方と関係を築いている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所の相談内容は様々で、『紹介されたので見学に来ました』と言うこともある。 GHと利用予定の方のニーズをしっかりと見極めて入所して頂いており、また入所困難でもそのニーズにあったサービスが受けられるよう支援している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所前のアセスメントで管理者とご家族の方及び利用者の方で利用目的を相談して入所していただき入所後は2～4週間は様子を見て、入所前のニーズと照らし合わせてサービスを行っている。 また、環境変化を最小限で抑える為に、居室環境を優先的に整えるよう家族の方に依頼を行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	アセスメントや利用者の方からの話及び性格・生活歴を把握した上で出来ること・役割を見つけて今までと変わらない生活を継続していくように努めより一層の関係を築く為に、談笑を欠かさずに行っている。	○	利用者の方からの昔話や経験から得るものは大きい。時間を見つけ、出来るだけ談笑する時間を作りより多くの情報を得て、日々場面場面で生かすように努めていきたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている			家族の要望と利用者の方の要望が相反する事がある。両者の意を汲み、相互理解が得られる支援となるよう今後も面会を含めた依頼と話し合いの機会を増やしたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している			
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	旧友や親戚、近所や仕事のつながりなど馴染みのある方の面会を依頼したり、手紙のやり取りを行っている。		今後も関係の持続に努めていく為に、利用者の方及び家族の方に働きかけを行っていききたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	トラブルも人間関係の構築の一つとして考えており必要以上に介入はしないが、暴力の恐れもあり過度にならないよう職員は注意して対応している。	○	利用者の方の介護度に差があることもあって人間関係に苦慮することもあるが、都度職員間で話し合いを行い解決策を出し合っている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	身体状況が悪化して入院や改善となり退所されたりしても回復などされて再契約されている方もおられたり他の施設への手続きの方法を尋ねてくる方もあり都度対応している。	○	契約が終了しても、施設の行事等に招いて関係を継続していきたい。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	何気ない談笑の中で、施設における暮らしの中の思いを聞くように努め、聞き取りが困難な場合は現在の生活状況を把握して、その利用者の方の立場となって検討している。	○	暮らしを共にしていく中で、十分にコミュニケーションを図り、思いを詳しく正しく把握していきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や馴染みの暮らし方は家族に詳しく徴収して本人からも適宜傾聴している。	○	生活歴についてはフェイスシートにより詳しく記録し新しい情報の追加記入も含め継続して職員間の共有に努めていきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	各利用者の方の能力を見極め出来ることはして頂けるよう場面作りに努めている。		能力に合わせて支援を続けることにより、それが発展的な事柄につながる。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成時に、利用者の方の気持ちを一番に伺いまた家族の意向も反映するよう連絡を行い、棟会議や職員会議の中で協議している。		利用者様の以降や家族からの情報は常に介護計画に照らし合わせてより良い支援につなげたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じて見直し、また、介護度や認知状況その他の特変が見られた場合に、速やかに協議を行い介護計画を変更している。	○	介護計画変更がより速やかに、迅速に、柔軟に対応出来るよう職員のスキルアップや学習が必要。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	1日の様子とケアに対する情報や変化の記録用紙を分け書類を総合的に見て、期間内に介護計画の見直しを行なっている。	○	カルテの記入やありや方がもう少し統一してしっかりとしたものになればよいと思う。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	施設の増床に伴い、認知症デイサービスがある。ショートステイはないものの、デイサービスを利用して施設入所になっても戸惑いがないようにGHの様子も見て頂くように努めたい。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域資源活用の一環として、施設イベントにボランティアの要請を行ったり、現在は定期的に利用者の方が好む活動が出来るようにボランティアの依頼を進めている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域包括支援センターのケアマネの方と定期的に連絡を取り、利用者の方の変化に応じて支援できるように努めている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターのケアマネの方と定期的に連絡を取り、利用者の方の変化に応じて支援できるように努めている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の方及び家族の方に確認を得て、一般的な内科については、施設のかかりつけ医に変更し往診を依頼して発熱や急変に対応出来るようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	<p>限界域はあるが、利用者の方が安心して過ごして頂くようさらに支援を努めて行きたい。</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	<p>スタッフの精神的ストレスを考慮しながら、施設として可能な限り支援して行き、緊急時に備えてどのような対応を行なって行くのかをさらに検討していく必要がある。</p>
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		<p>住み替え後の利用者の方の様子が把握できていないのでその周知に今後は努めて行きたい。</p>



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーを尊重し誇りを傷つけないように注意しながら支援している。	○ 声かけ一つにしてもまだまだ不足な部分があり個人を尊重すると言うことがどういうことなのか再確認が必要であるが、御用聞きであってはならないように注意を払う必要がある。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者の方との談笑の中で思いや希望を伺いながら可能な限り、利用者の方の意思尊重を行なっている。	○ 利用者の方の個々の問題(病気等)を説明しながら納得していただいた上で、意思を尊重したり自己決定が行なえるよう検討を行っていききたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日によって異なる利用者の方の状態に応じてしたい事・したくない事を見て、その方のペースに合わせて生活を行なっているが、時にスタッフ側の都合を優先してしまうことがある。	○ 利用者の方の希望に合わせて、少しずつ改善しているがまだまだ不足な部分があり、継続して改善を行いその人らしい生活を送るよう努めて行きたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	朝の整容や着衣選びなど、介助する中で、希望を伺いその方の好まれるように対応している。外出やイベントの時にメイクすると喜ばれている。	○ 馴染みの化粧品を使用しておられる方もあり、整髪にもこだわり(カラー・パーマ)もある。個々のおしゃれについては継続して支援を行ないたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の能力に合わせて、盛り付けや片付けを一緒に行なっている。	○ 施設拡大により、施設の合理化によって、直接的に調理へ参加する機会が減ってしまったが、間接的に食材を切ったり、またおやつ作りを増やして、作ることの喜びや機能の維持を努めて行きたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	一人ひとりの状況に合わせて、支援を行なっている。利用者の方によっては、病気の為希望がかなわない時があるため、十分な説明を行い納得を得ている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	必要に応じて個々の排泄パターンを周知してプライバシーに配慮しながら支援している。		今後もオムツ・パッドの使用頻度を減らしていくよう努めていきたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ユニットに合わせて1日おきに入浴を行なっている。湯量や湯温は希望に合わせて調節を行なっている。		入浴は精神安定に欠かせないものである。今後は毎日入浴が出来るような支援の検討を行っていきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中の活動量、精神状態など十分な観察と取り組みを行い、夜間安眠につながるよう努めている。		認知症悪化に伴う不眠について等、不眠に対する相談を主治医に行い、安眠できるように支援していく。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴を把握し、ともに暮らす中で、個々の役割を見つけ利用者の方の不満が募った時は、スタッフだけではなく家族の方にも状況説明を行い、外出等のリフレッシュできる支援を行なっている。		趣味の作品をホールに掲示しており、これらを継続して行っていきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は施設において行なっている。	○	金銭管理が出来るように担当スタッフと協力して可能かどうかを検討していきたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候や体調によって行なえないことがあるので説明を行なった上で、外気浴や散歩に行くようにしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	大きな外出支援は年に2回。それ以外に外出機会はあるがまだまだ少なく感じている。	○	まだまだ個別の外出機会が少ない。何が原因で不可能か協議して、業務見直しや、スタッフの体制の変更を検討している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙のやり取りの支援は希望に応じて行なっている。		今後は広報誌を送付する際に、一人でも多く手紙が送れる様に支援を行っていきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族の方や利用者の方の来客の際は笑顔で応対しお茶を出したり心地よく過ごせるように心がけている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアには継続的に取り組んでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵の弊害は職員は理解して施錠を行なわないようにしている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	特にプライバシーに配慮しながら見守りを行なっている。居室滞在時は定期的に巡回も行なっている。		特に大切な項目であるので、見守りを怠ることなく安全確保に努めなければならない。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の方の認知症状態や身体状況を勘案してそれらが必要・不必要を見極めて物品所持を行なっている。	○	利用者の方の価値観もあり、対応に苦慮することもあるが生命に関わるような事態になれば、利用者の方と家族の方と協議を行った上で、使用制限や預かりなどの対応を行なっている。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	各研修会に参加して、知識を習得するとともに、個別の状況に合わせて事故防止に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	職員会議で話し合いを行い、知識を習得している。 年2回は消防訓練なども行っている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練は年2回の訓練を行い、昼夜の対応方法を身につける努力をしている。地域では運営推進委員会を通じて働きかけている。	○	自治会の参加を密にして地域の方々にも協力を得ていきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入所前や身体状況の変化に応じて都度家族への説明は行っている。	○	利用者の高齢化に伴いリスクが高まってきている。利用者の方の身体状況を勘案して可能な限り抑圧感のない生活をしていく為にも話し合いを欠かさずに行いたい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	利用者の方の体調変化には早くに対応している。 主治医や看護職員と連携をとり情報を共有している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬情報をファイルして整理を行い、薬の内容などが理解できる状態にある。 なお疑問が生じた場合は看護職員及び主治医に連絡をとって指示を得ている。	○	利用者の方の生命に直接関わる内容であり、学習し知識を得て慎重に対処していきたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食事内容、水分摂取その他、日中の活動量に工夫をして便秘にならないように取り組んでいる。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	自立の方には歯磨きの声掛けと確認を行い、介助が必要義歯を使用されている方は義歯洗浄剤の処置を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合わせた食事形態、量を配慮して実践している。 水分量・食事量はカルテに記載している。		状態把握の為に特に水分の記録は脱水防止の為に継続していきたい。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症に関するマニュアルのつづりがあり、それらを参考に対応を実行している。 またご本人に確認をしてインフルエンザの予防接種も行っている。		当たり前ではあるが、感染防止の為に、利用者の方、来所者の方・職員の適宜の手洗いとうがいは継続して行って行きたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	厨房が移動した為、食材使用の機会が少なくなってきたが、調理器具や盛付時の食器・エプロン手洗いなど衛生管理には注意を払っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関や玄関周りには観葉植物や花を置き、出入りしやすい閉鎖的でない空間の工夫をしている。 ベンチも設置して気軽に外気浴を楽しめるようにしている。	○	玄関先の花が枯れてしまったままになっているので暮らしの一部として、水遣りや花植えも一緒に行って親しみやすい環境を更に整えて行きたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日差しの調節は簡単に行えるようにしてあり ホールの壁も季節感が分かるように飾りを施したり テーブルには散歩で摘んできた花を飾っている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間にはくつろぐことが出来る場がある。		自由な空間が多くあるので、思い通りに過ごせるよう場面作りに努力したい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具やテレビを持ってきて頂いている。また利用者の方の好み話の中で捉え、居心地よい居室作りを心がけている。		家具だけではなく、小物も家族に依頼を継続してより環境の整った場所に行きたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	24時間換気を行い、ホール・廊下・には湿温度計を設置して、温度著説を行っている。	○	スタッフや利用者の方の間でも体感温度に差があり個々の体調や表情を見て、快適に過ごして頂けるよう配慮していきたい。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下には手すりがあり、安定した歩行の手助けとなっている。施設内も段差がなく、危険回避の一員となっている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	個々の認知能力に応じた声掛け・説明を行い入用と共感の姿勢を徹底として、自立した生活が送れるよう支援している。	○	個別対応については職員のスキルアップも求められている。研修参加や自己研鑽にも努めたい。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	施設周辺の環境は、公共的にも整えてあり施設としても、裏庭にもベンチがあつてくつろぎの場として整えて活用している。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者様が落ち着いて暮らせる様に、個々の性格や個性等を把握し、その方に合わせた対応している。  
また、安全に安心して暮らして頂ける様に疾病や日々の状態変化を観察し、主治医等との情報交換をするように努めている。  
更に、個人の認知や身体能力に応じて可能な日課をして頂く事で、個々の生き甲斐や活性化に繋げれる様に日々の支援を行なっている。  
スタッフ全員で利用者様の介護計画の案や思いを出し合い話し合っている。  
感染予防（手洗い・嗽・共有で使用している物の消毒）、季節感を感じて頂く為施設の中に菜園がある。  
鳥取杉を使った木造和風建築、明るい日差しが施設内には降り注ぎ、自然にも囲まれ、ゆったりとした感じがします。  
菜園の野菜の成長も とっても楽しみです。  
利用者様中心、利用者様本意の暮らしの場となる様、スタッフは情報を共有し合い、良いケアを目指している。  
生活行事や昔ながらの風習を多く取り入れ、利用者様が生き生きと暮らせる様 支援している。